

神学校献金(神学生奨学金献金) 振替00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局

『2020年度第55回全国壮年大会の中止 またいつか関西でお会いするときまで』

実行委員長：永瀬睦臣（神戸）



本来はここで2020年度全国壮年大会のご案内を行う予定でした。しかし、このコロナ禍で8月の実施は不可能と判断し、今大会は中止との苦渋の決断をしました。今回ご配慮により、私達がどのような大会を目指していたかを共有する機会が与えられましたのでご紹介します。

テーマ：

「キリストの愛により違いを喜び、共生・平和へ」

講演1：

NGO神戸外国人救援ネット代表
飛田雄一先生

講演2：

大阪中央バプテスト教会牧師
咸光玉（ハム・クワンオク）先生
その他、パネルディスカッション、
夕食会、オブショナルツアー等

関西特に神戸は多人種・多文化社会の共存する街で、教会には移民の方も来られています。また、今年予

定されていたオリンピックからの気付き、更に韓国の方中心の大阪中央バプテスト教会との交流が少なかったという背景や教会、壮年の課題を考える中で、今大会は人種、文化、性別その他違いを持った各々の共存・共生・平和についてキリストの愛をベースに考える絶好の機会ではないかと捉えました。

そこで外国人の救援をされている飛田先生、韓国から日本の教会の牧師として長きに亘り活動されている咸先生のお二人を講師としてお招きし、共に生きるとは？平和って何？というところを掘り下げ参加される皆様に何か感じてもらう大会を目指しました。また関西と言えばお笑い、夕食会に楽しい企画も考えておりました。

大会が実現出来なかったことは残念ですが、今回実行委員からは準備の中で示された導きと意味、全てが無駄ではなく有益で感謝と喜びを感じられたとの意見も頂きました。

最後に主題聖句に想いをこめて
「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」
ガラテヤ3章28節

全国壮年大会実行委員会メンバー

実行委員長：永瀬睦臣（神戸）

副実行委員長：稲川仁（宝塚）

チャプレン：西脇慎一牧師（神戸）

書記：西欣也（神戸）

事務局長：樫崎宣夫（田辺）

事務局：長尾知明牧師（尼崎）



総会議案への投票結果と質問・意見等

事務局長 豊永義典

葉書による投票は6月15日に締め切りました。127の教会・伝道所が協力をして下さり、4項目ともに賛成多数で承認されました。

投票にあたり2つの教会（那覇新都心教会、横須賀長沢教会）から質問が届き、回答しました。その内容は別のページに質問と回答を載せていますので参照下さい。また議案への意見が議案1について3件（会費値上げの根拠を分かりやすく明示して欲しい、等）、議案2について4件（目標は2000万円にすべき、等）、議案3について3件（活動予定の中止・変更と支出額の変化予測について説明が欲しかった、等）、議案4について1件（委員長は変えていくべき）ありました。更に、浦和教会からは、西南神学部と同じように、九州バプテスト神学校、東京バプテスト神学校をおぼえ続けよう、との提言を受け取っています。

過去10年間の壮年大会の参加教会数は平均88教会（最大119、最少64）ですから、今回投票下さった

教会数はほぼ同等ですが、これまで壮年大会に参加されていない教会からも多くの投票があり、意見や質問があったことは、大変意味があったと思っています。

壮年会連合ニュースが年5回、神学校月間と壮年大会の開催という小さな活動団体ですが、皆さんの声を聞き、また伝えていくためにはまだまだ色々な工夫が出来ることを考えさせられました。今後とも皆さんから色々なアイデアが役員会に届くことを期待したいと思います。

議案	内容	総数	賛成	反対	白票・委任
議案1	報告関連議案	127	124	1	2
議案2	神学校献金目標額	127	121	3	3
議案3	活動計画・予算案	127	123	2	2
議案4	奨学金委員長任期	127	122	3	2

「神と人に仕える牧仕*となるために」

*については本文を参照ください。

九州バプテスト神学校 専攻科コース1年（宇美キリスト教会推薦）間村史子



主の尊い御名を賛美いたします。神学校を覚えて、お祈りや献金で支えてくださる皆様に感謝申し上げます。今年の4月に九州バプテスト神学校専攻科コースに進学いたしました。

わたしは、2006年7月2日にバプテストマを受けました。諸集会や祈り、面談などで毎日のように教会に通い、福音を伝えたいという思いが日ましに強くなっていきました。それから2～3年の月日を経て、一度、九州バプテスト神学校の資料を取り寄せたことがありましたが、その時は道が開かれませんでした。

2016年に実家に帰る事情があり、実家の近くにある宇美教会を訪れました。その教会が10年ほど前に神学校の資料を取り寄せたバプテスト派の教会だったということに、驚きを感じるとともに、主のお導きを感じました。そして、教会員の

方々の祈りに支えられ神学校に入学しました。神学校4年目の今年は、札幌バプテスト教会に研修でお世話になりながら、主事として働かせて頂くという恵みに与っています。コロナウィルス対策で教会に集まる事が出来ない中で、どのようにして御言葉を取り次ぎ、それぞれの場所で礼拝を捧げるか、またこの状況の中で地域と共に生きる教会としてどのように行動するかを学んでいます。

九州バプテスト神学校では、神学を修めるのは「へりくだって、神と人に仕えるため」という明確な目的をもって学ぶことができ感謝しています。神学校を卒業して招聘して下さる教会があれば、そこでは「間村ぼくし」と呼ばれたいと願っています。その時に、皆さまの脳裏に「牧仕」という漢字が思い浮かぶ者として用いられますようにと祈りつつ、学びを深めてまいります。皆さまのお祈りと励ましに心からの感謝をこめて。

北関東地方連合壮年会 会長就任にあたって

きたかん壮年会長 大場和夫（所沢）

私は、去る2020年1月18日連盟事務所で開かれた北関東地方連合壮年会総会において、新会長に選出されました所沢キリスト教会の大場和夫でございます。前任の石井努会長は10年の長きにわたり務められ、北関東地方連合壮年会規約の制定や、運営に寄与されてまいりました。また、これを支えてこられました役員の方々の労にも改めて深く感謝の意を申し上げます。すでにご承知の通り、今年度より北関東地方連合の会長選挙は、北関東ブロックを4グループに分け、原則2年を任期として輪番でグループから選出となりました。長年の課題でありました会長選出は、機能的な環境の中で進められることになりました。これを機に心新たに主の業の働きに勤しんでまいりたいと願っております。

どちら様もご同様、今年度に入りいよいよという時にコロナ禍により出端を挫かれ、緊急事態宣言などで役員会を始め関連の活動が制御され、試練に立たされております。壮年会は

自主的活動の下、伝道者養成に関わるミッション（使命）を主より預かっております。一つの主、一つの信仰、一つのバプテストマを掲げ、壮年会一丸となって共に主の業に励んで参りたいと願っております。止まない雨はない。ウィールスは宿主を漁り動く時代、益々心してアフターコロナを見据え、今後の福音宣教にこの経験を通して、津々浦々へと福音伝播に生かしてまいりましょう。



2017年度 第52回北関東大会(天城)
きたかん壮年聖歌隊「行け 主のしもべ！」



事務局執務：月、水、金 10:00～16:00 ☎・fax:048-886-7533 <http://www.sonen.net> sonen@bapren.jp

日本バプテスト連盟全国壮年会連合

〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4

< 那覇新都心キリスト教会からの質問と回答 >

質問1

「奨学金規程改正案の上程並びに負担軽減」(23ページ)が提出されておりますが、これは沖縄バプテスト連盟からの神学生の奨学金返済が今までと変わるのででしょうか。それとも、日本バプテスト連盟の神学生と同じように受け・返済するものなのでしょうか。

(回答)

日本バプテスト連盟全国壮年会連合奨学金制度(以下、「奨学金規程」)による奨学金の「給付・貸与」並びに「返済」の取り扱いについては、日本バプテスト連盟と沖縄バプテスト連盟で違いはありません。

しかし、「返還免除」において違いがあります。神学部を卒業後、一定期間、牧師等専ら伝道の業に従事した者は、奨学金返済の一部を免除しています。その免除対象期間は、日本バプテスト連盟の加盟教会に従事した期間であり、沖縄バプテスト連盟加盟教会での従事期間は対象外となっています。

つまり、日本バプテスト連盟および沖縄バプテスト連盟の加盟教会員が、沖縄バプテスト連盟加盟教会の牧師となっても、返還免除対象とはなりません。日本バプテスト連盟加盟教会の牧師となった場合は、返還免除対象となります。

これは、2000年に日本バプテスト連盟から全国壮年会連合に奨学金制度が委託され、その後、「専ら伝道の業に従事する者に関する規程」(以下、「伝道者規程」)を制定して、「専ら伝道の業に従事する者」を定義しましたが、その中に、沖縄バプテスト連盟加盟教会が含まれていないためです(過去に沖縄バプテスト連盟加盟教会の牧師を、返還免除対象者として取り扱ったことは確認しております)。

そのため、2019年度の奨学金規程を改正する際に、沖縄バプテスト連盟加盟教会も対象とすることを検討いたしました。しかし、日本バプテスト連盟と沖縄バプテスト連盟との間に、宣教協約などが結ばれていないこと、全国壮年会連合が取り組んでいる「神学生奨学金献金」に、沖縄バプテスト連盟は含まれていないことなどから、沖縄バプテスト連盟を対象とする規程改正までには至りませんでした。

なお、過去の事例も踏まえて、当分の間は、沖縄バプテスト連盟加盟教会の牧師となった者で、伝道者規程第5条の「特別認定」が認められれば、「専ら伝道の業に従事する者」として取り扱うことになっています。

質問2

7ページ 5④「沖縄バプテスト連盟教役者の取り扱いについて、連盟理事会と協議を行った」とありますがどのような協議が行われたのでしょうか。

(回答)

質問1でも述べましたが、2019年度の奨学金規程改正の際に、沖縄バプテスト連盟を組み入れることを検討し、連盟理事会に過去の経緯や取り扱い等について確認と協議を行いました。

その結果、沖縄バプテスト連盟が対象となっていないことは課題としながらも、まずは、連盟理事会で、沖縄バプテスト連盟との宣教協約などを検討することになっています。今後、それを受けて、奨学金規程、伝道者規程などの改正を検討したいと思っています。

<横須賀長沢キリスト教会からの質問と回答>

質問 1

提案事項が4項目ありますが、項目の初めに全部○が付いていますが、仮に1項目ごとに賛否を記入したい時は、提案事項を全文章書いてから賛否を記入システムですか？通常は、1号議案から始まり各議案毎に番号をつけていると思いますが、各議案毎の賛否やその他のことを記入する時、議案の見出しの全文章がなくても、何号議案と書いて賛否やその他のことを記入すれば、簡単に終わると思いますが？

(回答)

従来は、全国壮年大会の事前配布資料に総会議案を紹介し、そこでは議案毎に番号を付けてきました。今回は3月31日に壮年大会を中止する決定をした後、総会が実施出来ないことについてどうするか役員会で話し合い、議案を絞り込んで、その項目について承認を頂くことにしました。そして選んだ4種類について提案のような形としましたが、○印ではなく議案番号をつけた方が便利であったと質問を読んで反省しました。今後はわかりやすい記述を心掛けたいと思います。

なお、最初の○の議案のなかには、前年度の報告関係の議案がすべて含まれていますが、これは3年前から報告関係の議案については、壮年大会の前に実施する全国の地方連合の壮年会長による代表者会議で議論し、承認されたものを総会に一括で提案する形に変えてきたことから、このような内容になっていることをご理解下さい。

質問 2

修正予算とは、どのような意味だかわかりません。

(回答)

全国壮年会連合の総会は期の半ばの8月下旬に行なわれるために、当該年度の前年に予算案を審議承認したうえで、当該年度に修正を必要とする内容を反映させたものを修正予算として提案し、実行予算とするやり方をずっと踏襲してきました。

なお、予算を承認したうえで翌年に修正予算を再度審議する必要は、必ずしもないとの考え方はあると思いますが、連盟全体も総会を11月に行なうことから、同じようなやり方をしています。どこかで話し合っただけで変えていくことは可能なことではあると思います。

質問 3

神学校献金の目標額が3000万とのことですが、この数値は決算書に計上して有りませんが、目標額イコール予算額ではないのですか？

(回答)

予算管理上は目標額と予算金額同じにはしていません。25ページの奨学会計予算の収入のところは、神学生奨学金献金(実質基準)という表現にして、実績に近い金額にするようにしています。これは神学校献金の推進のためには、現在無牧師の教会が40前後あること、高齢の牧師の存在を考えると、毎年25名の神学生が西南で学び、卒業していく必要があり、この毎年25名に奨学金を給付・貸与するには3000万円が必要であることから、献金推進運動として引き下げたくないという思いがあります。もちろん毎年の総会で、現実的な目標額に修正した方がいいのではとの意見は頂きますが、代議員の総体としてはこの目標でいこうということになってきました。

なお16ページの最初の項目のところで書いていますように、ここ2年連続で西南神学部への入学者がゼロという事態を受け、役員会では献金の目標額をどのように考えて、どのような金額にするのか検討に入っていますが、これは来年度の総会に提案するべく準備していきます。